

福島原発事故は、 今も続いている

The Fukushima Nuclear Power Plant Accident: Ongoing Troubles

CASE

原子力災害被災者の健康問題が生じています

Nuclear disaster victims: health problems

原発事故後、未だ8万人以上の人々が避難生活を強いられています。県内外で過酷な状態に置かれている被災者は、大きな健康問題を抱えています。

More than 80,000 people are still in evacuation status. Because of harsh conditions inside and outside the prefecture, those people have major health problems.

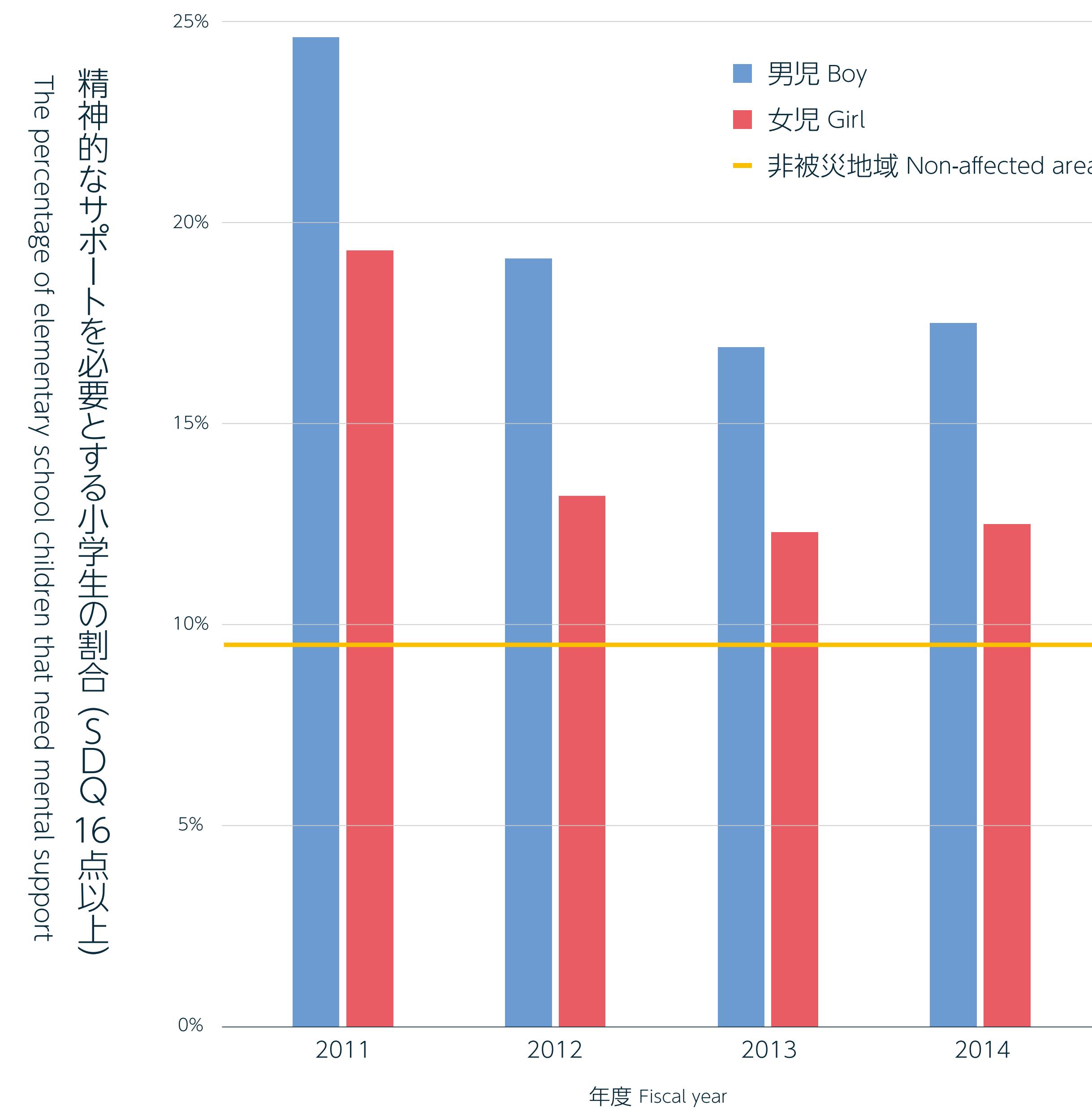
子どもの心の健康

福島県では震災後の住民の健康状態を把握して、必要な対策をとるための県民健康調査が、2011年10月から実施されています。

子どもの心の健康度を評価するアンケート調査からは、福島県内において、精神的な支援を必要とする子どもの割合は、被災していない地域に比べて、著しく高いことがわかりました^{*1,2}。この心理的ストレスの原因となっているのは、将来の健康に対する不安、住環境や地域社会の変化、社会からの偏見などがあげられています^{*3}。

Mental health of children

The Fukushima health management survey started October 2011 to monitor the health condition of the residents after the disaster, and to take necessary measures. A questionnaire survey was conducted to evaluate the mental health of children, and it showed that the proportion of children who need mental support in Fukushima Prefecture is significantly higher than those in unaffected areas. This psychological stress is caused by concerns about future health, changes in the living environment and local community, and prejudice from society.



「子どもの強さと困難さアンケート」 S 11-17

以下のそれぞれの質問について、あてはまる、まああてはまる、あてはま、めいあてはまるのボックスにチェックをかけてください。答えて自分が最も、あるいは、その質問が最もかっこいいと考えて教えてください。

あなたの名前: _____ あなたの性別: 男／女

あなたの誕生日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 生まれ

私は、他人に対して親切でやさぶらうとしている。私は、他人の気持ちをよく考える。

私は、おちつきがなく、長い間じっとしてられない。

私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。

私は、他の子どもたちと、よく仲良くなれる(友達・ゲーム・公園など)。

私は、ひどいからだつたり、よくかみしゃくわぬ。

私は、泣かないで一人で遊ぶか、人と付き合うことを好き。

私は、心地が悪く、いつも不快だ。

私は、頭が回る感じでいたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、よく泣き声で泣く。

私は、いつもそれをしており、もじもじしている。

私は、仲の良い友だちがいるなどと一緒にいる。

私は、おもんじてしまったり、誤ごとにすることよくある。

私は、同じくらいの年齢の子どもから、いいいいと言われている。

私は、すぐ気を取りやすく、注目を集中できない。

私は、新しい場所に慣れるところになり、自分でなくややすい。

私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。

私は、よくうそをついて嘘を言ったり、ごまかしていると責められたりする。

私は、他のからかうし、いじめられたり、からかわれたりする。

私は、自分がうそでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)。

私は、よくうそをついてかかげます。

私は、家や学校、そのところから、自分の物ではないものを持ってきてしまう。

私は、いつも泣き声で泣く。

私は、こわい、すぐに泣き出したりする。

私は、ものごとを最後までやりとり、集中力がある。

あなたの書名: _____ 今日の日付: _____ 年 _____ 月 _____ 日

ご協力ありがとうございました。 © Robert Goodman, 2005

SDQ調査のアンケート用紙

A Questionnaire Sheet for an SDQ survey

避難生活がメタボリックシンドロームを高める

メタボリックシンドロームとよばれるハイリスクな健康状態に陥る人々の割合は、震災後に避難生活を余儀なくされた場合の方が、避難しなかった場合よりも高くなっています^{*4}。仕事を失い仮設住宅での生活で活動量が低下したことや、アルコールやたばこの摂取量が増えたことなどの要因があるものと思われます。

Evacuation life increases the risk of metabolic syndrome

The incidence of metabolic syndrome - those who falls into a high-risk state of health - is higher in evacuees than in non-evacuees. It may be caused by the reduction of physical activity due to loss of work and to live in an evacuation shelter. The increase in alcohol and tobacco intake may also contribute.



仮設住宅(福島県内)

Temporary housing complex in Fukushima Prefecture

	メタボリックシンドロームの人々の割合 Incidence of METS		メタボ割合 [避難あり] (誤差範囲) [†] Incidence of METS [Evacuee] Incidence of METS [Non-evacuee]
	避難あり Evacuee	避難なし Non-evacuee	
男性 Men (3697人)	19.2% (241人/1254人)	11.0% (270人/2443人)	1.89 (1.55-2.31)
女性 Women (4850人)	6.6% (116人/1765人)	4.6% (144人/3085人)	1.45 (1.10-1.92)

†: 年齢分布などの違いを補正した割合の比。誤差範囲は95%信頼区間。

†: Odds ratio adjusted with the age distributions and other factors. The error range corresponds to 95% confidence interval.

震災後におけるメタボリックシンドロームの人々の割合^{*4}

震災前にはメタボリックシンドロームではなかった40~74歳の人々が、震災後にどのくらいの割合でメタボリックシンドロームになったのかを、避難指示が出た地域(避難あり)と、そこに隣接する地域(避難なし)とで比較した研究。事故後メタボリックシンドロームとなった人々の割合は、避難した人々の間で大きく、避難しなかった人々の場合と比べると、男性で1.55~2.31倍、女性で1.10~1.92倍であった。

Incidence of people with metabolic syndrome after the earthquake

A study was conducted comparing the proportion of people aged 40 to 70 years old who did not suffer metabolic syndrome before the earthquake by metabolic syndrome after the disaster, with or without evacuation. The proportion of people who showed metabolic syndrome after the accident was large among those evacuated and was 1.55-2.31 times for men and 1.10-1.92 times for women compared to those who did not evacuate.